

平成 26 年度

第 59 回 長野県中学校連合教科研究会

特別活動

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	指導者・司会者・記録者・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	各校の研究の要旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2～3
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	4～5
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6

I 研究テーマ

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

II 指導者・司会者・記録者

- ・指導者 北信教育事務所指導主事 甘利 尚之 先生
- ・司会者 長野市立豊野中学校教諭 倉島 宏和 先生
- ・記録者 長野市立東部中学校 中條 悟 先生

III 各校の研究の要旨

- 1 上田第四中学校 橋爪 志織 先生
自分の役割や責任を自覚し、クラスの仲間の考えや気持ちに触れながら、新たな集団の一員として、自主的・自発的な諸問題を解決し、集団決定していく力を高めていく授業構想。
- 2 岡谷西部中学校 黒岩 健一 先生
互いの良さを認め、主体的に話し合い活動に参加し、集団の一員として、自主的・自発的な諸問題を解決していく力を高めていく授業構想。
- 3 伊那東部中学校 大森 祐子 先生
集団の一員として、学級における生活上の諸問題を解決していく力を高めていく授業構想。
- 4 泰阜中学校 高野 昌生 先生
生徒が必要感を持って活動を決めだし、自分たちで互いの思いを尊重し話し合いを進め、活動に取り組んでいく中で、達成感や満足感、学級への所属感を高めていく授業構想。
- 5 緑ヶ丘中学校 小林 雄樹 先生
特別活動で行う学習指導についての授業構想。
- 6 三郷中学校 正谷 晴邦 先生
なりたい自分に向けて具体的にどんな取り組みをするか考え、実践してみて、振り返る活動を通して夢や目標を持って生活していく力を高めていく授業構想。(健康教育)
- 7 長野東部中学校 中條 悟 先生
特別活動で行う健康教育。「覚醒剤・麻薬の害」について単なる知識理解に終わらせず、薬物乱用をしない意志決定・行動につなげるための授業構想。
- 8 篠ノ井東中学校 古河 礼子 先生
身近な人間関係や事象から様々な人権課題に気づき共有する場面で、友達関係やクラスの人権問題について、クラスで話し合ったり、改善に向けて取り組んだりした身近な事例を聞き合うことを通して、人権意識を全校で話し合い高めていく授業構想。
- 9 附属長野中学校 下崎 大吾 先生
二つに絞った学級目標の案を、「学級目標検討チャート」で評価し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら話し合い合う活動を位置づけたことにより、集団の一員として、自主的・自発的な諸問題を解決していく力を高めていく授業構想。
- 10 附属松本中学校 柳沢 勇志 先生
学級目標とかわらせながら、高遠キャンプで感じた学級の良さや課題を伝え合うことで、学級への連帯感や所属感を高め、さらに学級集団を高めていく授業構想

IV 研究問題と協議内容

研究テーマに沿って、各校より提出されたレポートを各討議題に分けて協議しご指導頂きました。

討議題1「学校や学級の生活づくり」について（緑ヶ丘中、附属長野中、岡谷西部中）

(1) 討議された内容

①学級内の学習習慣作り

- ・保護者を巻き込んだことが良かった。学習への意義が見いだせた生徒が多かった。
- ・「やるべきことをやっているか」「やる気が十分か」で自分の位置を表したシートが有効。
- ・互いにアドバイスをする場面では、個々の課題のよりどころとなる、学級として願う姿が必要。

②学級目標決めに向けて

- ・学級目標検討チャートを用いることで見えていなかった自分が見える。観点がはっきりして良い反面、数値に目が行き過ぎて根拠がうすくなる。
- ・発言力のある生徒の意見に流されず、本当にそれでいいのか、と検討する機会をとる。
- ・学級目標への意見が言える土台として、行事での友達のエピソードをあげさせた。
- ・司会の方法を工夫。話し合いの前半は教師、後半は生徒が司会をした。
- ・文化として定着しているものがある。学級旗。

③学級における生活上の諸問題の解決

- ・集団決定の場に一人ひとりが関わるのが大事。グルーピングの方法が良い。
- ・当初決めた目標は今ひとつ浸透していなかった。振り返って改善するサイクルが大事。
- ・司会の切り返しが大事。事前にまとめ方を生徒と考えておいた。
- ・交流活動の「会の成功」をどうとらえるか。受け入れる側の視点を持たせたい。
- ・反対意見を出せる生徒の存在が大事。根拠がある。

(2) ご指導頂いた内容

- ・特別活動の目標は、望ましい集団活動。ねらいの見極めが重要。集団としての話し合いを通して集団決定し、集団で実践。みんなで関わるのが重要。
- ・問題の共有化から集団決定をし、そこから自己の関わり方を考えていくことが大切。
- ・班での話し合いを取り入れる場合は、班の集団決定とクラスの集団決定をどう関わらせるか、どう意見をまとめるかが重要。全体で共有できているか見直していく。
- ・地域・家庭との連携、道徳との連携をはかる。
- ・良さを実感する集団活動の展開。認め合い、自己肯定感、所属感が持てるものでありたい。
- ・生徒の「学級目標」観、「一つのチーム」観。目的感なしで作られた集団を、学級活動を通し一つにしたい。
- ・中学校では行事と学級活動の関わりが大事。その中で充実させていく。
- ・取り組みの視覚化をはかる。学級目標検討チャートは観点が明確で思考が見える。点数だけでなく根拠について話し合うこと。立場を明らかにする方法もある。

討議題2「全校集会や行事に向けて学級や学校の意識を高める活動」について

(伊那東部中、上田第四中、篠ノ井東中)

(1) 討議された内容

①クラス合唱への取り組み

- ・教師はできる限り出ない方向に進めたが、どの程度出れば良いか。
- ・目標をあえて一つにまとめず、個々の意見が消えるのを避けた。
- ・「金賞」「勝利」といった目標と、「悔いを残さない」といった目標、どちらも認めていく必要がある。歌う回数が目標のときもある。どういう思いで話し合っているのか、共有が大事。

- ・話し合いの時間をどう確保するか。

②集会でつける力（人権教育の全校集会から）

- ・全職員が関わり、必要感のある集会に。集会の中で自発的な発言を作れないか。
- ・クラスの課題を話し合い、集会で発表していく。スキルも必要。繰り返すことで高まる。
- ・将来的に必要な力。大人数の異質集団の中でも話し合いの力をつける。
- ・集会を活性化するのは工夫が必要。主催側にいろいろな生徒をかかわらせる、テーマごとに語り合う場を設ける、細分化して意見を言いやすくする、共通点・相違点を見出させるなど。

(2) ご指導頂いた内容

- ・基本的な話し合いの仕方は指導していく必要がある。「出し合う、比べ合う、まとめる」段階をきちんとわけて進める。
- ・少数意見の扱いが認め合いにつながる。
- ・教師の出のあり方は「生徒に決定を委ねる話し合い」か「意図的・計画的な指導内容がある話し合い」かの判断による。任せるのであれば出ない、最初に指導すべきことがあれば指導する。ねらいをはっきりさせる。
- ・集団決定する目標の質が重要。「みんな大きな声で歌おう」のように、一人一人の努力に依る内容なら集団決定の必要はない。みんなの協力がないと達成できないことを集団決定していく。
- ・行事から得たことを道徳の授業で確かなものにしていく。行事のために前段として道徳を行うのはよくない。特別活動は道徳的実践の場。
- ・集会で3年生を活躍させることは、より良い校風作りにつながる。話し合いの結果、取り組み方を決めてから参加させる。

討議題3「特別活動で行う健康教育の実践事例」について（三郷中、長野東部中）

(1) 討議された内容

①心の健康教育としてのドリームマップ作り

- ・自分の夢と、いつ達成するかを示し、「達成できました」という形で発表。社会、他者との関わりを考え、自立型人間を目指す。
- ・保健の先生方の反応はよい。元気がない生徒の前段階の様子がわかる。
- ・脳科学を取り入れているが不確定要素が多い。しかし言葉によって力が加わることはわかる。

②麻薬・覚醒剤の被害にあわないための健康教育

- ・専門の方から話を聞くのはどうか。実際の体験者、関わった方からの話を聞くのも良い。
- ・ネット資料などから体験記などを拾ってみてはどうか。インパクトの強い資料がある。
- ・ロールプレイは遊び半分にならないことが大事。意志が弱い子には有効。

(2) ご指導頂いた内容

- ・短期の目標との関連づけ。日常にどう生かしていくか、どう実践するかが重要。
- ・発達段階によるほめ方の違いを意識する。中学生は、その子が頑張っていて効果が上がっていると自覚していることを褒めることが有効であると言われている。
時間の確保ができるか。年間計画の工夫、内容の統合、生徒の実態に即して重点化する。
- ・原因を整理し、解決方法を集団で探る工夫として、意識調査、パネルディスカッション、小グループでの話し合いなどが考えられる。
- ・日常の中で何を実践していくか。命の大切さ、規範意識、友情のあり方などいろいろな方向から考えていく。

(文責者 長野市立東部中学校 中條 悟)

V 本年度研究会の反省と来年度の方向

平成 26 年度テーマ 「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
 ～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・全県の軸となるテーマなので、ぶれないようにこのままでよい。 ・テーマが大きいのので、各校の研究テーマと整合を取りやすいのでよい。 ・よいが、連合教科研究会に参加するときに知ることが多い。 ・「自主的な態度」は、まさしく今必要とされている力であるので、よい。 ・次なる特別活動の内容の連動性を見据え、副題の裾野を広げてよい。学級活動+αの形式もあるのではないかと考えていただきたい。
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマにつながる各学校の実践が行われているので、内容・成果もこの方向でよい。 ・学級活動の(1)だけに偏らず、様々な分野についてのレポートがあり、よかった。 ・安易に扱いがちな学級目標決めをステップを踏んで行っている実践は、どの学級にも取り入れられると思った。 ・すぐに、または今後取り入れていきたい実践の発表を聞くことができ、ためになった。 ・レポートが多く、意見も活発で学ぶことが多かった。
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の方法や経過がいろいろあってよい。それを発表してもらおうと勉強になる。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・内容によって討議しやすいようなグループ分けがされていてよかった。
○研究集録等のWebページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> ・メール、ホームページはとても詳しく案内があり、とてもありがたかった。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの形式がある程度決まっていた方が書きやすいので、本年度のような方法でよい。 ・どのような形式でまとめたらよいのかよく分からなかった。前年度のレポートの一部が載っていると分かりやすいと思う。 ・レポートを事前に出さず、当日配付でもよいというのは大変ありがたかった。(司会者、指導者も構成アンケートがあるのでレポートの概要は事前に知ることができる。レポートが司会者、指導者に早めに届いた方がよいが、それがネックになるのなら、当日でもレポート持参で参加してくれるのはありがたい) ・メールは双方が忙しい。簡略化できるところはしていきたい。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・継続でよい。 ・「かかわり」「豊かな」が大切なキーワードになると思う。
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・継続でよい。

○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程などの研究授業がないと、各校でなかなか丁寧に扱われない。各学校で大切に扱ってほしい。 ・日頃簡単に扱ってしまいがちなところを細分化する研究はすごく勉強になると思う。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・人数、レポートが多いので、分科会を2つに分けたらどうか。 ・レポートの表紙は以前のように研究者名が下の方がしっくりくるし、統一感もあると思う。 ・学級経営に直結することをアピールし、よい会なので参加者を増やしたい。 ・発表者が交代する際の機器の設置にかかる時間がもったいない。工夫したい。 ・今年度は午後にワークショップを取り入れることも計画していたが、レポートが充実していたため実施はしなかった。今後、レポート数や分科会の構成にもよるが、ワークショップを取り入れることも考えられる。 (レポートで発表された活動を取り上げ、みんなでやってみるという方法もある)

平成 27 年度テーマ（案）（継続）

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

VI あとがき

本年度も県下各地より多くの先生方にご参会いただきました。お集まりいただいた先生方のレポートは、学級経営・生徒会指導・学習等を通して生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の実践が多く紹介されたものでした。先生方の日々の実践に基づいて生徒の具体的な姿から熱心に協議を深めていただき、明日からの実践に役立つ大きな成果をあげて研究会を閉じることができました。本年度も1分科会での開催となりましたが、先生方の積極的なご発言等により、活発な討議となりました。ご参会の先生から、「初めて特別活動の分科会に参会したのですが、大変勉強になり楽しかったです。よい会なのでもっと多くの先生がこの会のことを知り、参会していただきたい」という感想もいただきました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました指導者の甘利 尚之先生、レポートをくまなくお読みいただき、綿密な司会計画により協議を深めていただきました司会の倉島 宏和先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の中條 悟先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方が参加され、よりよい特別活動のあるべき方向を求めて、より有意義な研究会にさせていただくことを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 下崎 大吾
副委員長 柳沢 勇志